

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第4巻第52号

第52週(12月20日～12月26日)

発行年月日:平成17年(2005年) 1月 6日
 発行:滋賀県立衛生環境センター内
 滋賀県感染症情報センター
 電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1) 全数報告の感染症(1類～5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (52週)	累積報告数		平成15年報告数	
			滋賀 (52週)	全国 (52週)	滋賀	全国 ^(*)
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	9	569	7	459
	腸チフス	0	2	66	0	60
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	21	3,628	8	2,635
4類感染症	E型肝炎 ^(*)	0	1	30		
	オウム病	0	1	38	1	44
	ツツガムシ病	0	0	281	2	380
	デング熱	0	2	45	0	31
	マラリア	0	2	73	0	77
	レジオネラ症	0	0	160	1	143
5類感染症	アメーバ赤痢	0	8	574	3	504
	ウイルス性肝炎	0	5	293	3	634
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	166	3	115
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	53	0	52
	後天性免疫不全症候群	1	6	1,104	8	949
	ジアルジア症	0	2	84	0	99
	梅毒	0	4	510	2	493
	破傷風	0	2	99	1	69
	急性脳炎	0	1	154	0	98

*1:平成15年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2:平成15年の報告数は、感染症法の改正前のためE型肝炎のみの集計はされていません。

2) 定点把握の対象となる5類感染症

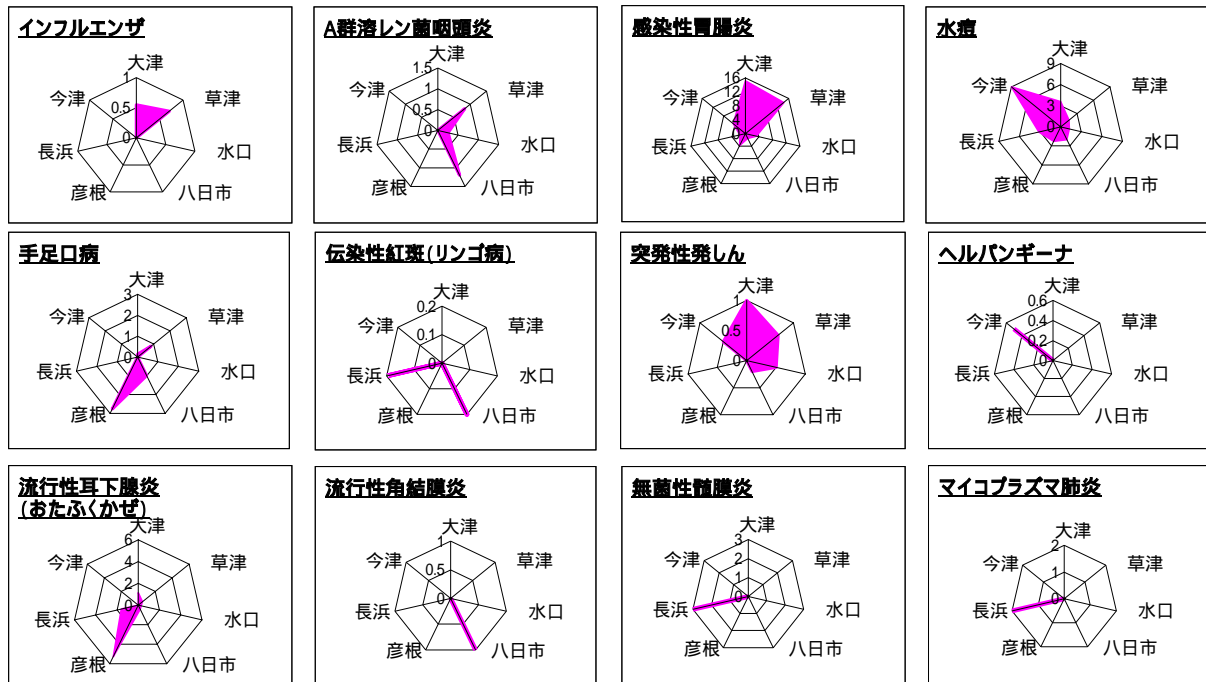
(1) 疾病別・週別発生状況(第47～52週、11/15～12/26)

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)										
	前週より増加						前週と同じ		前週より減少		
	47週 (11/15～)	48週 (11/22～)	49週 (11/29～)	50週 (12/6～)	51週 (12/13～)	52週 (12/20～)	48	49	50	51	52
インフルエンザ	0.02	0	0.02	0.39	0.20	0.25					
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0					
咽頭結膜熱	0.03	0.12	0.15	0	0.03	0					
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.48	0.45	0.61	0.36	0.70	0.36					
感染性胃腸炎	3.48	3.79	5.61	5.15	6.00	7.39					
水痘	1.45	1.88	1.58	2.97	2.88	2.79					
手足口病	1.24	0.76	0.91	0.94	1.12	0.67					
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.03	0.09	0.06	0.03	0.09	0.06					
突発性発しん	0.70	0.42	0.67	0.76	0.58	0.45					
百日咳	0	0	0	0	0	0					
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0					
ヘルパンギーナ	0	0	0.06	0	0	0.03					
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0					
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.27	0.94	0.91	1.48	1.24	1.30					
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0					
流行性角結膜炎	0	0.14	0.29	0.57	0.14	0.14					
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0					
無菌性髄膜炎	0.14	0.14	0.29	0.29	0	0.43					
マイコプラズマ肺炎	0.14	0.29	0.57	0.14	0.29	0.29					
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0					
成人麻しん	0	0	0	0	0	0					

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第52週、12/20～12/26)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津
インフルエンザ	0.25	0.55	0.70	0	0	0	0	0
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.36	0	0.83	0.25	1.20	0	0	0
感染性胃腸炎	7.39	15.14	14.17	3.25	1.60	3.75	1.60	4.50
水痘	2.79	3.57	1.50	1.25	2.00	2.25	3.20	9.00
手足口病	0.67	0.14	0.83	0	1.00	2.75	0	0
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.06	0	0	0	0.20	0	0.20	0
突発性発しん	0.45	1.00	0.67	0.50	0.20	0	0	0.50
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0.03	0	0	0	0	0	0	0.50
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.30	1.14	0.50	0.25	0.40	5.25	1.60	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0.14	0	0	0	1.00	0	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0.43	0	0	0	0	0	3.00	0
マイコプラズマ肺炎	0.29	0	0	0	0	0	2.00	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。手足口病については彦根で先週に引き続き多くなっており、八日市では先週より増加しています。流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)については先週多かった水口では減少しています。彦根では先週よりさらに増加し、大津ではやや増加傾向となっています。無菌性髄膜炎については長浜から

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といいます。

* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

3) 今週のトピックス

感染性胃腸炎の発生は増加傾向持続 水痘の発生は今津保健所管内で増加

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(12月13日～12月19日)の報告数よりやや増加し、インフルエンザ、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)および無菌性髄膜炎で多くなっています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフを参照)。

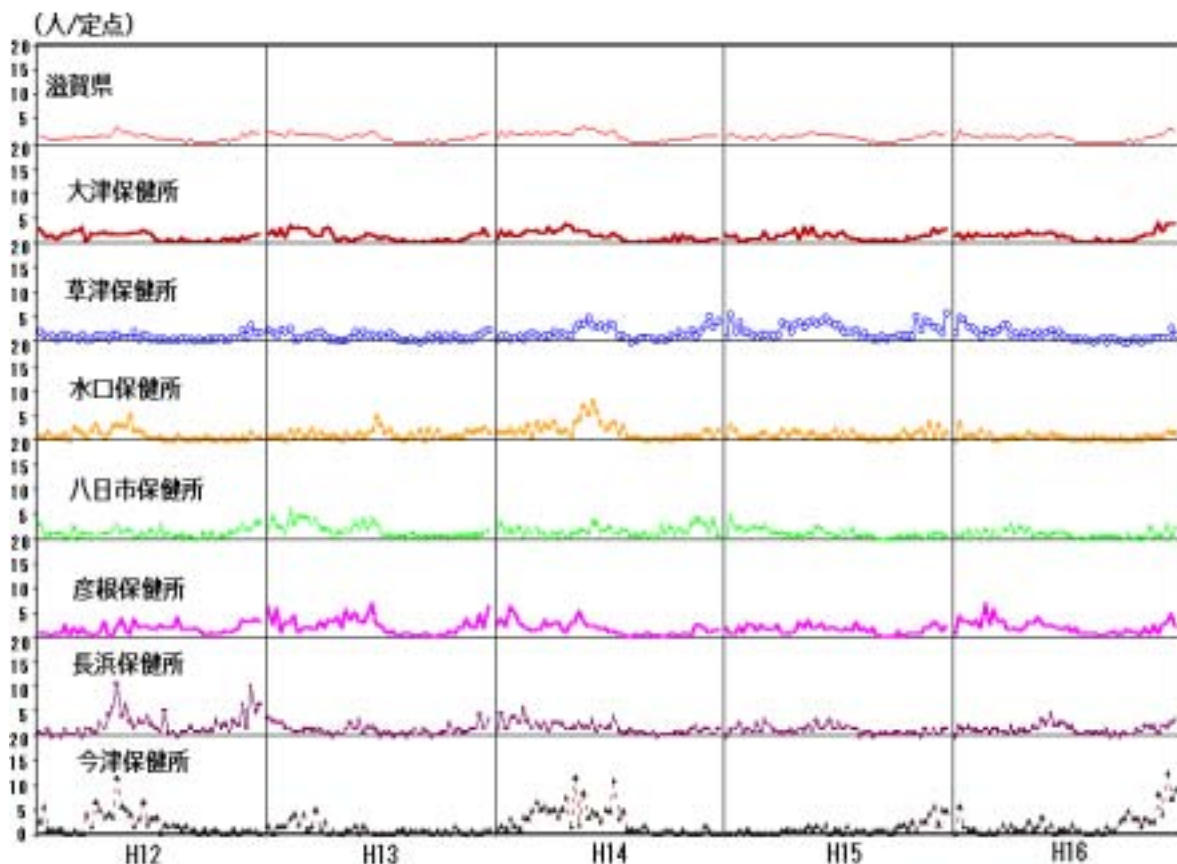
インフルエンザについては、先週の定点当たり患者数0.20よりやや増加し0.25となっていますが、昨年の同時期の定点当たり患者数0.55より少なくなっています。

また、全国における第52週(12月20日～12月26日)の定点当たり患者数は0.52で、週毎に増加しているものの現在のところ散発的な流行となっています。定点当たり患者数は宮城県5.99で特に多く、群馬県2.74、岡山県2.15、千葉県0.96、東京都0.74、埼玉県0.72、岐阜県0.69においても多くなっています。

感染性胃腸炎については、昨年の同時期の定点当たり患者数よりやや少なくなっていますが、第43週(10/18～10/24)以降増加傾向を示し、定点当たり患者数は7.39となっています。大津および草津保健所管内で多くなっており、定点当たり患者数はそれぞれ15.14、14.17となっています。今後、さらに増加することも考えられますので、感染予防に対する十分な注意が必要です。

水痘については、先週の定点当たり患者数2.88よりやや減少し2.79となっていますが、**今津保健所管内**では9.00と非常に多くなっていますので今後の発生動向に対する注意が必要です。

水痘の保健所管内別発生状況(平成12年第1週～平成16年第52週、H12.1.3～H16.12.26)

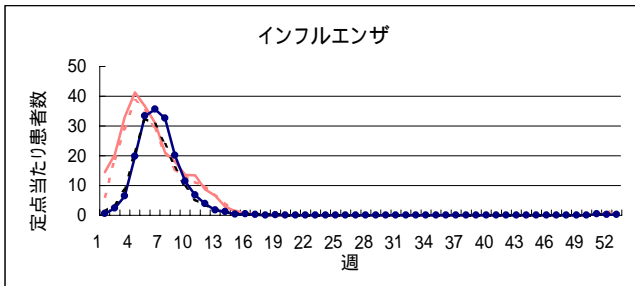


平成12年から平成16年の発生状況についてみると、今津保健所管内において他の保健所管内よりやや多く発生しています。今津保健所管内における水痘の発生状況は、平成12年から平成14年までと平成15年および平成16年の発生状況に違いがみられます。特に、平成16年48週(11/22～11/28)以降の増加が著しく、過去4年間の同時期と比較すると最も多く発生しています。

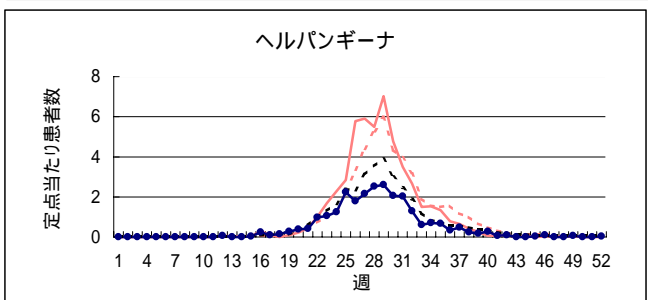
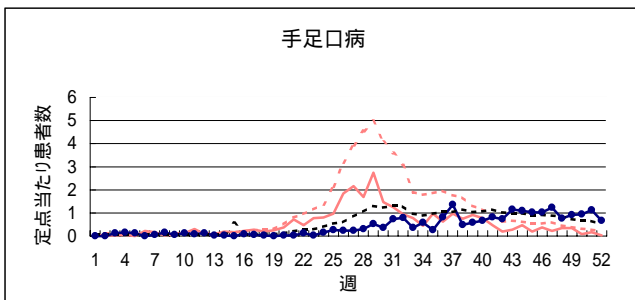
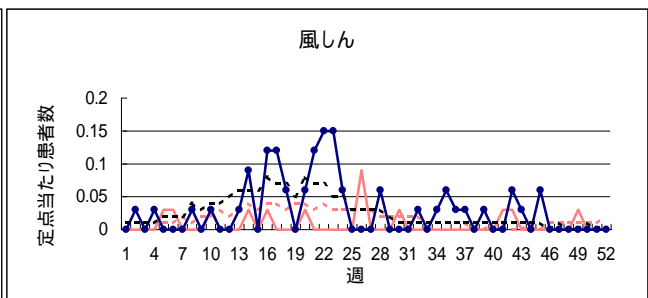
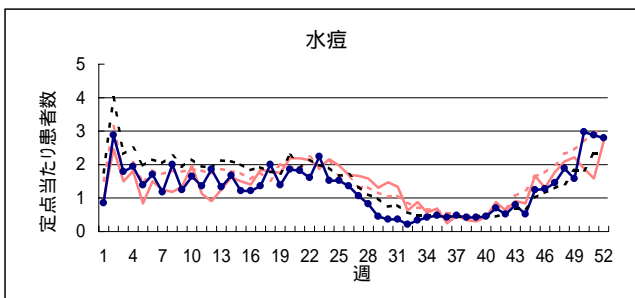
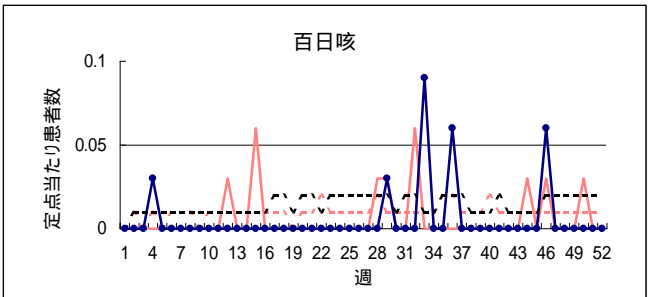
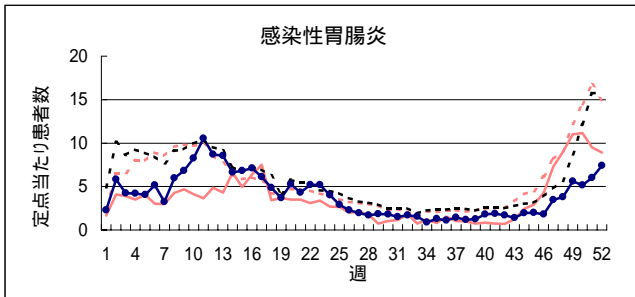
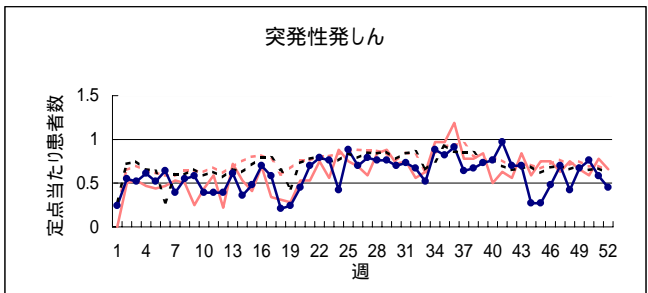
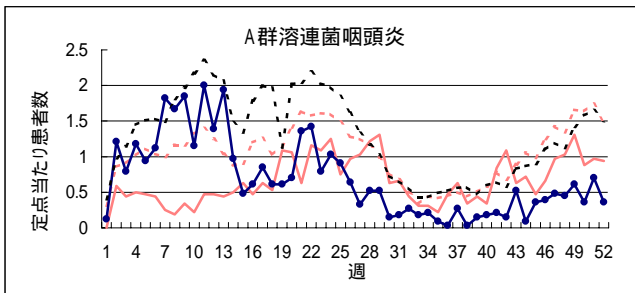
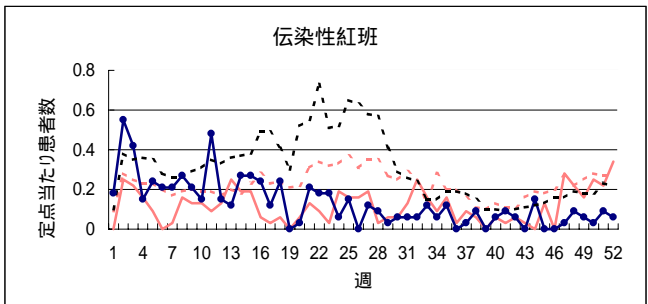
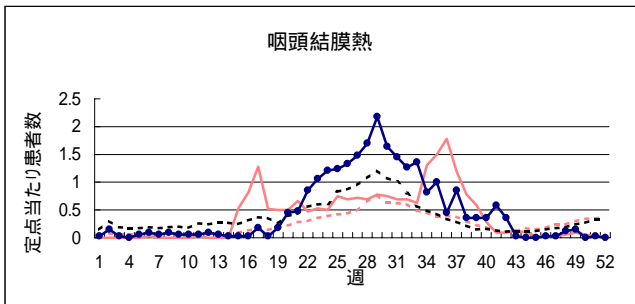
また、県全体における平成16年第1～52週の年齢別発生状況は、1歳未満8.3%、1歳18.9%、2歳19.5%、3歳16.9%、4歳15.2%、5歳10.4%、6歳5.1%となっており、5歳以下において全体の89.2%を占めています。

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**
(<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>)において公表されています。

疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第52週、H15.12.29～H16.12.26)



H15 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H16 { 滋賀 (solid blue line)
 全国 (dotted blue line)



疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第52週、H15.12.29～H16.12.26)

H15 〔 滋賀 ———— 全国 〕
 H16 〔 滋賀 ●——● 全国 〕

